

# 効率と便利さと無関係な

## おばあちゃんの話

時枝俊江

失われていく家事労働を、今のうちに記録しておきたいのだけれども、「生活史研究所」を主宰している友人の小泉和子さんからの相談である。小泉さんは建築史の中でも家具史の専門家である。「何のために?」「お金はどうするの?」という問題が頭をかすめたが、家事をとりまく環境の超スピードの変化がそんな議論をさせてはくれなかった。

とりあえずは、小泉さんのなげなしの貯金と、私たちの技術と労力を合わせての仕事となる。60代になった監督の私、50代のプロデューサー役の小泉さん、40代にさしかかった今泉文子さんが制作実務と録音を、バリバリの30代のカメラマン岩田まき子さんが撮影を、ただ一人の男性である20代の撮影助手という女性四人と男性一人のスタッフ。その逆の中で仕事を続けてきた私にはいささかの感慨があった。今泉さんも岩田さんも多くを説明しないうちに、この記録の仕事はお金がなくともやった方がよいといってくれた。

身近なモデルとして、小泉さんの母上の80才のスズさんを記録することにする。スズさんは、大田区内に昭和25年に建築した家で次女と二人、昔とさして変わらない暮らしをさきてくれるとのこと。縁の下は収納場所としては可成り有効なスペースである。台所の床板をはぐと、糠漬けの甕や、漆器類、木炭が入っていた。適温適湿の保存場所である。

解いた着物も汚れの少ないものは、水に漬けておき、洗剤をつかわずに手で揉むだけできれいにした。おはぎの小豆に砂糖をいれてからは、ガスの火から七輪の火にうつしかえた。ガスの火では甘味をおいしく引き出せないとのこと。温度との関係を体験的にご存知なのだろう。木杵などの細かいものは膝をつかって折り、木片は鉋で割るなど材料にあった手と道具のつかい方は自由自在という感じ。

スズさんの手は何と多様な動きを見せることだろう。(布を)解く、揉む、絞る、引張る、伸ばす、刺す、たたむ。(薪を)抱える、掴む、投げる、引く、割る。(鍋を)持つ、揚げる。(小豆を)掬う、捏る。(胡麻を)摺る、(糯米を)握る、撫でつける。(ふとんを)縫う、扱く。ここまで書いてきて手偏のつく字が多いことにおどろく。たったこれだけの家事労働から拾った手の動きの複雑さ、微妙さ。これからも家事労働の記録の中でもっと多くの手偏の字と出会うのだろうか。

スズさんの手の動きを見ながら、今撮影中の長野県の老人ケアの現場を思い出した。在宅診療に向く医師が、どんなリハビリよりも自分で御飯やみそ汁をつくるのをすすめて、83才のおばあさんが這って二度の食事をつくっているのである。なるほどこうして家事をする手の動きを見つめていると、それは

れている。隣家まではアパートが押し寄せているが、大きな柿の木が二本と物干しと、茗荷などが生えている小さな(昔はあたりまえだった)庭をもつ木造の家である。

夏には、張物、張板と伸子張り、着物をほどこき、洗い、張るところまでを撮り、秋のお彼岸にはおはぎをつくり、これから夏に張った着物をふとんに再生するところを撮影するのである。私には忘れかけたなつかしい風景であったが、20代の撮影助手の青年は、昔の映画をみるようであったらしい。たった40年前のありふれた風景にしか過ぎないのに。

スズさんがつかうものは、全部道具であって器具ではない。張板、伸子針、洗濯板、甕、釜、竈、火箸、七輪、消炭壺、箆、鉋など、釜も、丸い輪でつながっている火箸も百年近く使っているものらしい。釜の鏝のころは、一部欠けていたが、竈の方にそれを補う金属がつけられていた。火箸は使っているうちに10センチ近く減って短くなり、火をさわる時は熱くてたまらないという。

竈で焚く材料は、縁の下に入っていた。古びた木杵、古い木箱、木片など、近くの年寄りの大工さんが建築材の残りの木片をもっていかなるリハビリよりもまることが、私にも納得できる。痛くてもつらくてもやれば出来るだよ。今までやってきたことだから」とおばあさんは屈託ない。

カメラマンのまき子さんは、スズさんの仕草を見逃すまいと眼を光らせる。布の端を膝の下に挟みこんで固定し待針を打つ。針や糸を髪の間をくぐらせてすべりを良くする。火をおこす時、屑籠からヒョイと焚付の紙屑をとり出す。ガスの火を消す時に無意識に元栓を止める左手、消炭壺に完全に入りきらない七輪の残り火に無造作に薬缶をのせる。あと10年も経たないうちにこんな仕草は見られなくなってしまうのだろうか。炭屋さんも綿の打ち替屋さんも7、8年前に店をたたんでしまったとのこと。

普通の3、4倍はある大きな漉餡と胡麻のおはぎが50個程出来た。重箱につめたおはぎを近所へ配ると出向いていたスズさんの後姿はさわやかだった。



時枝 俊江  
記録映画作家、東京女子大学卒業。  
芸術祭大賞(1977)、文化庁芸術作品賞(1988)等受賞。  
作品:「絵図に惚ぶ江戸のくらし」  
「こどもをみる目」他多数

